

新型コロナウイルス感染拡大により、政府が「新しい生活様式」を表明しています。だから、私も感染防止の為に外出の際は、マスクを着用しています。

先日、叔父の仕事の手伝いをしている時に、お店に来店されたお客様の言葉に振り返りました。「あの人、自分だけマスクをして、子どもにはつけさせていないやん。親としてひどくない。」と仰っていました。そのお客様の視線の先の親子を私は見ました。その親子は、見た目は四十代半ばの女性と私と同世代の男の子の2人でした。確かに、幼い子供はテレビでも無理にマスクをしなくても良いと報道されているのは、見たことがあります。しかし、親がしているにも関わらず、私と同世代の男の子がマスクをしていない姿には違和感がありました。

この違和感をどうしようかな、と考えましたが、私は積極的な方ではなく、どう声をかけようかと、戸惑いました。お店にはマスクが無い人に渡すための予備のマスクがあるので、それを持って行き、付けていない理由を聞けば失礼じゃないのではないかと、思いました。私は緊張しながらも、マスクを持って親子の所に行きました。「お客様、よろしかったらマスクをお忘れの方に無料でお渡ししています。いかがですか。」と、マスクを差し出しながら言いました。すると、「ありがとうございます。この子は発達障害でマスクをするとパニックになってしまうから、付けられないのでお気持ちだけいただきます。」と仰いました。男の子はマスクをしたくても出来ない、そんな解答が返ってくるなんて考えてもいませんでした。暑いから、めんどくさいから、車に忘れてきたから、そんな安易な考え方でしかその男の子を見られなかった自分が恥ずかしくなりました。たぶん、あの親子にも、「親としてひどくない？」という言葉は聞こえていたはずですが、それをどんな気持ちで聞いていたのだろうか。そして、私の行動に対する感謝の言葉・・・

発達障害という言葉は聞いたことがあります。でも、なんとなく聞き流していました。「無知」だったため、大きなお世話をしてしまい、私の行動で傷つけたかもしれないことに気づきました。それなのに、私はそのままその場をひきつった笑顔で立ち去りました。私はどうしたらよかったのか分からず困ってしまいました。

あとで叔父から聞いた話ですが、あのお客様は、「気の利く優しい息子さんですね。お気持ち嬉しかったです。」と、仰ったそうです。その言葉を不思議に思った叔父は、事情を聞き、私の代わりに謝罪をしてくれたそうです。そのお客様は「またぜひ寄せてもらいます。」と、笑顔で帰って行かれたそうです。

私は「無知」から発した心無い言葉が人を傷つけることに繋がる、ということをも身を持って知りました。だからもっとたくさんのお客さんのことを知らなければならないし、自分で考えて行動することは、生きていく上でとても重要なことだと思いました。そして、あのお客様のように感謝で返せる心の大きな人間になろうと思いました。